

## 縄文土器の混和材

長野県川原田遺跡出土土器の分類への視点

Classification of Tempering Materials on Jomon Pottery from the  
Kawarada Site

清水芳裕

- ①古代窯業製品の材質
- ②縄文土器の混和材の諸特徴
- ③川原田遺跡の縄文土器の胎土

### 【論文要旨】

縄文土器の特徴の一つとして、胎土にさまざまな種類の混和材が含まれていることがあげられる。その多くは砂で、乾燥や焼成のさいの収縮、あるいは煮沸による加熱で生じる膨張や収縮を防ぐ目的で加えられたと考えられる。このほかに土器の質感や装飾を附加するために、とくに選択された材料もある。関東・中部地方の縄文中期の阿玉台式土器の黒雲母や、九州西北部の縄文前期曾畠式、中期並木式、阿高式などの土器に多量に含まれる滑石などがそれである。

混和材として加えられる砂は、材料の意図的な選択や他地域から土器が搬入された場合を除くと、多くの場合、土器が作られた遺跡周辺の岩石の風化物を採取したものと考えられる。しかし、同じ遺跡の土器においても、砂の種類とそれらが含まれる量は、必ずしも一致するものでないため、製作場所の確認は容易でない。したがって、それぞれの土器の製作地を同定するためには、遺跡周辺の堆積物の地質学的な特徴と、それを反映していると考えられる要素を、多数の土器の混和材の中から抽出する必要がある。それによって、在地の製品であるか他地域からの搬入品であるかを検討することが可能になる。

その試みの一つとして、長野県川原田遺跡出土土器の混和材の特徴を分析した結果、深成岩起源と火山岩起源の岩石鉱物の含有率によって区分できる4種とともに、黒雲母および変成岩を多量に含む特徴から2種に区分できることが明らかになり、その背景を検討した。それによって、中部・関東地域の他の遺跡の土器との関係を考察する上で必要な情報を導くとともに、混和材の分類方法、および製作地や土器型式との関連を解釈する観点などを示した。